

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第三十三話

「幌尻岳とその自然と伝承」

(要約文)

日高山脈の主峰幌尻岳は、母なる新冠川の源流を発し、長い旅をして太平洋へと注いでいます。豊かな自然があるとともに、昔からアイヌ民族の伝承が存在する場として認識されています。日高山脈は、数千万年前の太古の地球において、ユーラシアプレートと北米プレートが海底で衝突し、一方のプレートが地上高く持ち上げられて成長したものと考えられています。幌尻岳周辺には、カールと呼ばれる「圏谷(けんこく)」があります。これは、氷河期時代に氷河によって削り取られた谷です。特に新冠側にある七つ沼カールは、日高山脈最大のカールで、雪解けや雨が降ると七つの沼のようになることから、このように呼ばれています。幌尻岳という名は、アイヌ語の「ポロ・シリ」が由来となっています。これは「大きな山」の意味で、アイヌ民族は古くからか神様がいらつしやる場として崇拝している山です。幌尻岳には多くのアイヌ伝承が残っています。次に幌尻岳にまつわる伝説の一部を紹介します。

○ポロシリは神々がおおりて遊ぶ所である。
○この山は、神様が住んでいるので遠慮して登らない場所である。キムンカムイ(山の神・ヒゲマ)に悪いので獲ることはできない。

○山の大湖沼から亀がおおりてくるのを見たアイヌの人がいるという。

○ポロシリ沼に化け物がいた。ある者がこの化け物の匂いにふれてしまつて、全身が腫れて自由を失つた。しかし、神様に祈りを捧げると治つた。

○オキクルミという神は、ポロシリ山上の神境に出ると、女神と結婚して人間社会の全ての風習を作り上げた。

○日高の幌尻岳には、昔たくさんの白熊がいた。この山には大きな沼があつて、沼の中には幅広い昆布が生えており、多くの海鳥がきれいな声を響かせて渡つて冬を越し、アザラシやトドもこの沼で越冬して、春になると雪解け水にのつて海へと下つていくという。

幌尻岳は豊かな自然が残つて、アイヌ民族の昔話が伝えられていることから、国の文化財である名勝「ヒリカ・ノカ(美しい・かたち)」に指定されています。



アイヌ伝承が残る幌尻岳の「七つ沼カール」

災害に備えて
避難場所や避難経路を
確認しておきましょう！

消防署新冠支署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期

区分	火災件数	救急件数
3月	0件 (0件)	32件 (17件)
3年1~3月	0件 (0件)	77件 (63件)

交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期

区分	発生件数	死者	傷者
3月	1件 (0件)	0人 (0人)	1人 (0人)
3年1~3月	3件 (1件)	1人 (0人)	2人 (1人)

人の
うごき

(令和3年3月末現在)

人口 5,325人 (前月比 - 67人)
男 2,614人 (前月比 - 34人)
女 2,711人 (前月比 - 33人)
世帯 2,755世帯 (前月比 - 13世帯)

町公式ホームページ

町公式フェイスブック

